

# 住みよいたけし

住みよいたけし会広報

第21号

2020年10月16日発行

事務所 武石地域自治センター内

TEL:0268-85-3667

<https://www.s-takeshi.jp>

印刷 中澤印刷株式会社



## 時間短縮 種目変更 観覧制限

9月19日(土)第111回武石小学校校庭運動会が開催されました。

8月から9月にかけて上田市のコロナ警戒レベルは4と高い状態が続いており、9月16日までにレベル3に引き下げられなければ運動会を中止することになっていましたが、児童・教職員・保護者みんなの願いが届き、奇跡的に開催することができました。

プログラムは、感染リスクを考慮してマスクの着用や児童が密着することのないように配慮したものに变更され、運動会の花型種目であるリレーでは、バトンパスをしないスタイルで競技が行われました。

観覧は、一家族2名までに制限されました。観客の皆さんは、残念ながら来場できなかった皆さんの分も気持ちを込めて、児童たちの精一杯の姿に大きな拍手を贈っていました。

児童たちは、運動会が開催できることを信じて、夏休み後は、早朝や二時間目の休み時間、さらに、

お昼休みを使って一生懸命練習に励んできました。待ちに待ったこの日、146人の全児童が練習の成果を発揮していました。明日を担う武石小学校の子どもたちの姿は、武石の澄んだ青空にも負けなくらい、とびつきりに輝いて見えました。



9月、鳥屋の弥勒堂では、秋の木漏れ日を受け彼岸花が輝くように咲いていました。

(鳥屋の方から情報いただきました)

## コロナ禍の折 テイクアウトはいかが

コロナ禍で客数が激減している飲食店や観光施設。3密を避けながら売り上げを伸ばす様々な努力が行われています。上田市商工会などは、「もっテイク上田」というネットサイトを立ち上げ、テイクアウト（持ち帰り）ができるお店を紹介しています。そんなお店の取り組みを取材しました。「手打ちらーめんかじかや」ではラーメン類のテイクアウトができます。電話で予約した利用者は、鍋などの容器を持参して持ち帰ります。お昼に

4, 5人前をテイクアウトする人もいるとのこと。[旬彩処鳥羽]では、弁当、ちらし寿司、丼ものなどのテイクアウトを行っています。麺類以外ならOKとのこと。[やきとりほろほろ]も焼き鳥、から揚げなどのテイクアウトが可。[武石温泉うつくしの湯]では唐揚げ弁当、カレー、丼物などのテイクアウトを行っています。

各店では4月以降来客数の減少が著しく、半分以下という状況もあったようですが、テイクアウトを始めたことにより、来客数の減少分を多少なりともカバーできているとのこと。密を避けながら、自宅でお店の味を楽しんでみてはいかがでしょうか。

## ここに陣屋北門があった!!

住みよい武石をつくる会（自然・生活環境部会）では、9月10日武石風土つなぎ隊「つなぐ家」の開催に合わせて下武石新屋のつなぐ家東側の小路に「陣屋北門小路」の案内看板を設置しました。

部会では、本年は武石地域の名所旧跡に案内板設置など環境整備を進めています。

現在の小学校体育館や武石児童館の附近は、戦国時代武石地域を治めていた大井氏の居館があり、江戸時代には上田藩の陣屋（出先機関）がありました。陣屋の正門は東側（下武石信号から南の道路側）にありましたが、この小路は陣屋北門から街道に通ずる狭い小路となっていました。北門は、明治になってから堀之内の小山直さん宅の門として移築され、現存しています。この小路や陣屋があった歴史を皆さんに知っていただくこと



藤原さん（左から2人目）と関係者の皆さん

今回の案内看板設置となりました。

看板は12年前大阪から移住された下本入在住の藤原敏甫<sup>としまさ</sup>さんが作成しました。藤原さんは「つなぐ家」の看板も制作されています。

## お知らせコーナー

### ①おさんぽギャラリー秋 10月31日(土)・11月1日(日)

場 所：つなぐ家、ギャラリークラノマ周辺 主 催：武石風土つなぎ隊

●ミニ文化祭…写真、絵手紙、書道、菊展

●マルシェ

●ジャズライブ

…10月31日(土) 10:30～、13:00～ 2回公演  
「枯葉」、「サマータイム」などおなじみの曲

●沖縄民謡演奏会

…11月1日(日) 10:30～ 出演「ちゅらばこ」

●第4回集まれ仮装大賞

…11月1日(日) 13:00～

毎回、趣向を凝らした仮装をした人たちが登場する仮装大賞。開催を要望する多くの声に応え、おさんぽギャラリーの一環として今年も開催されます。今年、ソーシャルディスタンスが取れるよう武石小学校体育館が会場です。

武石を盛り上げる  
人やグループ紹介

# 武石の人・ 団体



(株)ホクエツ 東信工場  
製造課係長 関 秀彦さん

下 武石の(株)ホクエツ東信工場では、今年の春先から大規模な工事が行われており、高い建物が目につきます。どんな工事なのか、また工場でどんな物を作っているのかを、製造課係長の関秀彦さんにお聞きしました。

東信工場では、平成2年からコンクリート二次製品(道路側溝、農業用水路、河川護岸ブロック等)を生産しています。ホクエツグループ(本社仙台市、分社7社)全体では、業界で1、2位を競うシェアとの事です。

今回の建物工事は、約30年を経て老朽化した工場・事務所を増改築し、大型製品化への対応、生産能力の向上等を図るとの事です。一際目立つ高い建物(写真1)は、新しい生コン製造設備で、右側の四角い4階建ての工場(武石地域で一番高い建物?)は、砂利や砂を運び上げて供給する設備で、左側のセメント用サイロ、ミキサー設備などを含めて、東信工場の心臓部になります。また、東信工場の入口右側に建設中の2階建ての工場には、事務所と製品検査場が入るとの事で、門や看板の取替えなどの整備を含め来年3月まで



(写真1) 生コン製造設備

に全ての工事が完了する予定との事です。

東信工場での製品の比率は、近年は公共5、民間5ぐらいとの事です。が、昨年の台風災害により、現在は復旧工事に使う河川護岸ブロックの引き合いが多く、生産が追い付かない状況との事です。

特に、ホクエツ社製の護岸ブロック(写真2 製品名:ヘイベブロック)は大型で積み上げ作業も簡単である事から、「施工が楽で早い」と土木業者からも喜ばれており、武石新橋付近を始め武石川の護岸工事にも東信工場で生産した護岸ブロックが使われています。



(写真2) 護岸ブロック (ヘイベブロック)

製品を作る上で大切な事をお聞きすると、「維持費の削減や人手不足対策、工期短縮等の要望があり、①耐久性(長持ち、壊れない)を重要視すること、②楽に安全に仕事ができる製品を開発すること」との事でした。冬期間には生コンを練る水道水が凍ってしまう等の苦労もありますが、「お客様の要望で特注製品を開発して納入し、お礼の言葉をかけてもらった事が一番嬉しい」、「近隣の皆様には、工事に伴いご迷惑をおかけしていますが、よろしくお祈りします」と関さんは話していました。

## ②たけし紅葉めぐりウォーキング

巢栗溪谷、竜ヶ沢ダムなどを巡ります

- ・10月18日(日) 9:15 ~ 12:30
- ・武石観光センター駐車場集合
- ・主催: つくる会 健康福祉体育部会



## ③たけしカルタ歴史さんぽみち

武石小学校のふるさとカルタに詠まれた名所などを散策します

- ・10月24日(土) 9:00 ~ 12:00
- ・武石体育館駐車場集合
- ・主催: つくる会 子育て教育文化部会

# たけし 歴史さんぽ道

## やきもち石は明治、ブセキは江戸時代にデビュー

郷土史家 児玉卓文

「ルビーとも思えるひかり 宝の武石」、[すずしげに カラコロと鳴る やきもち石]と武石カルタによまれ、私たちが親しんできた武石特有の武石とやきもち石は、藪合から上武石の「一ノ瀬層」と呼ばれる緑色凝灰岩の中にあります。

今から2500万年前、上田小県地域はフォッサ・マグナ(「大きな裂け目」の意味)と呼ばれる海底でした。この裂け目に海底火山から吹き出され最初にたい積した物質が岩石となったのが、うす緑色の岩石グリーン・タフ(緑色凝灰岩)です。

やきもち石は明治28年、武石小学校第16代校長となった保科百助が、赴任早々に発見して学界に紹介しました。早速、東京帝国大学などの博士や学生が見学を訪れ、全国からは標本の申し込みが舞い込みました。この功績が認められ、保科はこの年の秋に東京帝国大学地質学教室で学ぶ機会を与えられ、29年に『日本地質学雑誌』に「小県郡産鉱物標本目録」を発表しました。

その目録から武石地域のものを拾ってみると、「下本入で緑簾石(村民はやきもち石という)、赤鉄鉱(新発見)・苦土雲母・砥石・褐炭、下武石で褐鉄鉱(村民は村名武石を音読してブセキという)、下武石と余里で黄硫鉄鉱(下武石ではチャカ、余里では金武石と呼ぶ)、上武石で蠟石、余里で方鉛鉱(中にほんの少しの銀分を含み数年前採掘することがあったが、資本不足でやめた)、村のあちこちで水晶」とあります。

保科は立科町山辺の生まれで、長野県師範学校(現信州大学教育学部)を卒業、飯山・東塩田・本原小学校で1～2年づつ勤務のあと、28歳で武石小学校に赴任して勤務4年、大豆島小学校・蓼科高等小学校に1年づつ勤務して教職を退いています。武石が一番長い在籍です。その間、村人の生活を豊かにしようと、造林・機織り・染色・養蜂・養豚の普及と実践に村人を励ました。

やきもち石の全国デビューは明治28年ですが、武石は江戸時代に知られていました。

真田太平記館の斜め向かいに、江戸時代に万屋

という裕福な呉服太物屋があったと記した案内板があります。主人の成沢七郎左衛門は、茶道・絵画・古書画・古器物・焼物など多趣味で、俳号雲帯を名乗って俳句もしました。彼はその俳句を通して、北は盛岡から南は鹿児島・宮崎までのネットワークがありました。次にあげるのは、寛政9年(1797)頃、雲帯にあてられた手紙2通の一節です。

- 1…武石なにとぞお世話してください。欲しくて欲しくてたまりません。
- 2…武石14・5粒お恵みください。このような石をすでに20粒ほど収集しています。

差し出し人は鈴木半左衛門一保、越後高田15万石の家老です。国学・茶道・俳諧・物産家として知られた才人で、藩の財政改革のために積極的な殖産興業なども行なった人です。

8代將軍吉宗が産業開発のため実学を奨励したため、その後、動植物・鉱物などの研究が盛んになり、珍しい石や鉱物を収集する人たちが全国ネットを形成しました。その中に、ブセキも入っていたことが分かります。

2000万～1500万年前、東北日本と南西日本を形成する陸塊は、それぞれ逆回転しながら大陸から離れ、その後長いことフォッサ・マグナの海峡で隔てられていました。このことが十和田湖の周辺で初めて見つかったトワダカワゲラ類の分子系統地理研究でわかりました。実はこの虫、それ以前に武石で採集されていきました。

学会への発表が早ければ「タケシカワゲラ」と呼ばれたのに。残念です。



やきもち石の採集できる沢  
赤山の左が下本入の小山沢、右が一ノ瀬の常滑沢